

## Do CL Column

K.N. (小木インストラクター生徒さん)

### 犬が歩けば尻尾が揺れる

書道の仕事に行く前の時間の話なのですが、午前中、布団の中で行きたくない私はきっと具合が悪いんだ！と頭を抱えて頭の中で苦しんで居たのですが、布団から出て着替えて、財布やスイカの確認をしたりして外に出て、バスに乗り電車に乗ると嘘のように具合の悪さは消えスッパリとした感覚になっていて驚きました。そしてCLで犬が歩けば尻尾が揺れると習ったのは正にこのことだなと実感しました。

子供たちの書道教室では子供がやんちゃして怪我をしないようにしなくては。半紙はキレイに切らなくては。大事な書類は親にキチンと渡さなくては。とアンテナが自分の悩みから切り離され現実に目が向いているので悩んでいる暇がなく、目の前のことに注意が注がれ午前中の具合の悪い憂鬱な自分から助けてくれました。CLを習っていても気が付いたらつついじつと動かず感情のままに自分をメタボ猫※にしてしまう瞬間があるなと感じました。※「メタボ頭のネコのお話」へリンク

### 夏のプールの中にいた私

私は母に少し不満を持っていました。  
今現在の母にはありません、昔の母にです。  
私が凄く小さな子供の頃、母は私によく怒鳴って、嫌いだ  
ったピアノの練習や宿題を無理やりにやらせてばかりいた  
と勝手に思っていたからです。

私が大人になってから振り返った時、私が小さかった頃母はイライラしていることが多かったなあと感じていたし、姉妹関係も母のせいで今ぎくしゃくしているのだと誰もが持って当たり前な様な悩みまで母のせいにもしていました。でも、今はとても優しい理解のある母になったのだと思っています。



今年のある夏の真昼、キッチンでふと小さな頃のことを母と話していました。  
なぜそんな話になったのかは正直思い出せないのですが、姉と私と妹の小さな頃はどんなだったか？という話になりました。

「超可愛かったもん、お母さんとお話したい人ってそこに一列に並ぶんだもん」。

その言葉が母の口から飛び出た瞬間、

「あーっ！」

真夏のすごく暑い日に冷たいプールに飛び込んだ様な感覚がしました。

それくらい心地良きはっきりと今居る場所で20年前に体験した記憶が鮮明に蘇ったのです。

今立っているキッチンで母は物凄く優しい顔でにこにこしながら小さな私たち娘三人の拙い言葉遊びに順番に優しく耳を傾けてくれました。「あのね、あのね。えっとね…」と話したら次は妹、次は姉、私の番が早く来て欲しい。母に私のおしゃべりを聞いてほしい。

小さな頃イライラしていた母もニコニコしていた母も等しくいたのに記憶から優しくニコニコしていた母を都合よく削除して大きさに言うと昔の母を少し悪者扱いして甘えていたのでしょう。それを肌で感じて凄く恥ずかしくなりました。

この夏繋がったこの20年の点と点がなんと私にとっても母にとっても幸福なのだろうと感じました。

いつどんな時代でも色々な形で自分を支えて愛情を注いでくれていた母がいたことを具体的に思い出せたことはCLに沿っているのではと感じます。

後はその感謝を具体的にどう表すべきか？が私のこれからの自分への宿題です。

(茨城県取手市CLインストラクター/小木晴代：相談室<sup>ハ</sup>ター<sup>イ</sup>ズ [h-ogis8docl@tbz.t-com.ne.jp](mailto:h-ogis8docl@tbz.t-com.ne.jp))

 [目次へ戻る](#)